

鹿児島県のシンボル

県章(昭和42年制定)



鹿児島県の地形を図案化したもので、中央の円は火の島「桜島」を表しています。これは、鹿児島県の雄大な自然、県民の情熱、融和、団結と、伸びゆく鹿児島県を象徴しています。

シンボルマーク(平成6年策定)



鹿児島県の豊かな自然や新たな息吹を象徴する「風」と「波」をモチーフにして、鹿児島県の頭文字「K」を表したデザインで、未来を目指す、躍動的な鹿児島県の姿を表現しています。

県の花 ミヤマキリシマ(昭和29年指定)



九州に自生するツツジ科の花で、本県でも霧島山系一帯を中心に自生し、初夏の山々を鮮やかに彩ります。

県の鳥 ルリカケス(昭和40年指定)



奄美大島・加計呂麻島・請島のように生息する、るり色の羽毛が美しいカラス科の鳥で、国の天然記念物にも指定されています。

県の木 カイコウズ(昭和41年指定)



南米原産で強烈な緑の葉と赤い花弁が鮮やかなコントラストをみせ、本県の気候や風土に良くあって育ちやすく、いかにも南国的な感じの木です。

県の木 クスノキ(昭和45年指定)



鹿児島と歴史的につながりの深い樹木で県内に広く群生しており、特に樹齢1,500年といわれる始良市や志布志市の大クスは有名です。

ぐりぶーファミリー



「ぐりぶー」は、鹿児島が全国に誇るブランド「かごしま黒豚」と、鹿児島の豊かな自然をイメージしています。「ぐりぶー」と「さくら」は仲よしパートナー。二人の間に、平成26年10月10日に個性豊かな7つ子が生まれました。

元気な7つ子も一緒に、大家族で賑やかに、鹿児島の魅力を全国に伝える「かごしまPRキャラクター」として頑張っています。

県民の日(7月14日)

明治150年を記念して平成30年12月に制定されました。

現在の県域を全て含む鹿児島県が誕生したのが、明治4年の廃藩置県布告日の7月14日。

この日を「県民の日」とし、県民がふるさとを愛する心を育み自信と誇りにあふれる、より豊かな鹿児島県について考える日となるよう、県民の日にふさわしい取組を展開します。

かごまる(鹿児島県教育委員会公式キャラクター)



第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会(2023かごしま総文)のマスコットキャラクターとして誕生した「かごまる」は、令和6年度より、児童・生徒の文化活動を応援し、県教育委員会の取組等をPRするため、鹿児島県教育委員会公式キャラクターとして頑張っています。

さくらじまん



鹿児島のシンボル桜島をモチーフにした大きな体、どこか西郷隆盛をイメージさせるかわいらしい表情が、「鹿児島のイメージにピッタリ!」と大人気です。

鹿児島のPRを応援する「かごしまPRサポーター」として頑張っています。